安全データシート

セクション 1　製品および会社情報

製品

製品名:　BENZENE
製品の説明:　芳香族炭化水素
化学式又は構造式:　C6H6
主用途:　原料油

会社情報

供給者:　**東燃ゼネラル石油株式会社**
〒108-8005
東京都港区港南1-8-15

緊急連絡先　03-6713-4100
製造者連絡先（代表）　03-5495-6000

セクション 2　危険有害性の要約

この物質は法的指針によれば危険有害性があるとみなされる。（SDS セクション15参照）

ＧＨＳ分類:

引火性液体 ： 区分 2
皮膚刺激性 ： 区分2　眼刺激性 ： 区分 2A　生殖細胞変異原性 ： 区分 1B　発がん性 ： 区分1A　特定標的臓器毒性（反復暴露） ： 区分 1　吸引性呼吸器有害性 ： 区分1
水生環境急性有害性 ： 区分2

GHSラベル表示:
ピクトグラム:

注意喚起語:　危険

危険有害性情報

物理的特性: H225 : 引火性の高い液体および蒸気
健康: H304 : 飲み込んで気道に浸入すると生命に危険のおそれ H315 : 皮膚刺激 H319 : 強い眼刺激 H340 : 遺伝性疾患のおそれ H350 : 発がんのおそれ H372 : 長期に渡るあるいは、反復暴露による臓器の損傷
環境: H401 : 水生生物に毒性

注意書き

予防措置: P201 : 使用前に、取扱説明書を入手すること P202 : 全ての安全注意事項を読み、理解するまで取り扱わないこと。 P210 : 熱、火花、裸火、高温のものから遠ざけること - 禁煙 P233 : 容器を密閉しておくこと P240 : 容器及び、受入れ装置を接地すること / アースをとること P241 : 防爆型の電気機器、喚気装置、照明機器を使用すること P242 : 火花を発生させない工具を使用すること P243 : 静電気放電に対する予防措置を講ずること P260 : ミスト / 蒸気を吸入しないこと P264 : 取り扱い後は、十分に皮膚を洗うこと P270 : この製品を使用する時に、飲食あるいは、喫煙をしないこと P273 : 環境への放出を避けること P280 : 保護手袋及び、眼 / 保護面を着用すること P281 : 指定された保護具を使用すること
対応: P301 + P310 : 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること P302 + P352 : 皮膚に接触した場合、多量の石鹸と水で洗うこと P303 + P361 + P353 : 皮膚 （ あるいは、髪の毛 ） に接触した場合、直ちに、全ての汚染された衣服を脱ぎ、流水 / シャワーで洗い流すこと P305 + P351 + P338 : 眼に入った場合、数分間、水で暫く洗い流すこと。 コンタクト・レンズを着用していて容易に外せる場合は外して、洗い流し続けること P308 + P313 : 暴露あるいはその懸念がある場合、医師の診断 / 手当てを受けること P312 : 気分が悪い時は、医師に連絡すること P331 : 無理に吐かせないこと P332 + P313 : 皮膚刺激がある場合、医師の診断 / 手当てを受けること P337 + P313 : 眼の刺激が続く場合、医師の診断 / 手当てを受けること P362 : 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には、使用前に洗濯をすること P370 + P378 : 火災の場合、消火に水噴霧、泡、ドライ・ケミカルあるいは、炭酸ガス (CO2) を用いること
保管: P403 + P235 : 換気のよい場所で保管すること。また、冷所に保管すること P405 : 施錠して保管すること
廃棄: P501 : 内容物および容器は、法規制に従って処分すること

内容物: ベンゼン

その他の有害性情報:

物理化学的危険性

この物質は、着火源となる静電気を蓄積する可能性がある。 この物質は蒸気を発生し、速やかに燃焼性混合物を生成することがある。また、 蓄積した蒸気は、もし着火した場合、燃焼もしくは爆発する恐れがある。

健康有害性

鼻、喉及び、肺への刺激の可能性がある。 ベンゼンに長期間反復して暴露すると、造血器官に重大な障害を起こし、貧血および後に急性骨髄性白血病（AML）の発症に関連すると思われる。

環境有害性

追加すべき危険はない

備考: この物質を専門家の助言なしで、セクション1の用途以外に使用すべきではない。健康に及ぼす影響を調べた結果、個人差はあると思われるが、化学的曝露により潜在的な健康リスクを与える可能性がある。

セクション 3 組成、成分情報

この物質は、化学物質として定義されている。

通知すべき危険有害物質もしくは、複合物

名称	CAS#	濃度*	ＧＨＳ危険有害性コード
ベンゼン	71-43-2	100 %	H225, H303, H304, H340(1B), H350(1A), H315, H319(2A), H372, H401

＊ガスの濃度は容量パーセントで表し、それ以外は重量パーセントで表す。

日本の成分情報

労働安全衛生法 57条1項、表示対象物質：

名称	濃度
ベンゼン	90-100 重量%

労働安全衛生法 57条2項、通知対象物質：

名称	労働安全衛生法 物質番号	濃度
ベンゼン	531	90-100 重量%

労働安全衛生法施行令、別表3-1、製造許可物質: なし。

PRTR法第１種指定化学物質:

名称	制令番号	濃度
ベンゼン	400	100 重量%

実際の濃度に幅がある場合、PRTR法指定化学物質の濃度は代表値又は中心値で示す。

PRTR法第２種指定化学物質: なし。

毒物及び劇物取締法の対象化学物質: なし。

セクション 4 応急処置

吸入

暴露を止めること。救助員は、自身あるいは他の人々が暴露するのを避けること。適切な呼吸用保護具を着用すること。もし呼吸障害、めまい、吐き気が起きたり、意識不明の状態に陥った場合は、直ちに医師の治療を受けること。呼吸が停止した場合は、機器等を用いて酸素吸入を試みるか、口対口の人工呼吸を行う。

皮膚との接触

石鹸と水で接触した部分を洗浄する。汚染した衣服を脱ぐ。汚染した衣服を、再度使用する前に洗濯する。

眼との接触

少なくとも15分間水で完全に洗い流す。医療機関で手当てを受ける。

経口摂取

直ちに医療機関の手当てを受ける。無理に吐かせてはならない。

医師への注意

経口摂取した場合、本物質は肺まで吸引され、化学物質による肺炎が起こることがある。適切に治療する。この軽質炭化水素物質、またはその成分は、非常に高濃度（職業被ばく限界よりかなり高い）に暴露するか、あるいは高いストレスレベルまたはアドレナリンのような心臓刺激物質と同時暴露すると、その後に心臓感

作を伴うおそれがある。この種の物質の投与は避けなければならない。

暴露によって悪化すると思われる既往症

ベンゼンを含有する; 肝疾患のある人は、毒性影響をより受け易い可能性がある。

セクション 5 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤: 消火には噴霧水、泡、ドライケミカル、炭酸ガスを使う。

不適切な消火剤: 直接の水噴射

消火

消火方法: その現場から避難させる。 漏出物または流出物が引火していない場合、霧状の水を使用して蒸気を消散させ、漏出を止めようとしている人を保護する。 消火剤やその希釈剤が、水路、下水、あるいは上水道へ流入することを防ぐ。 消防士は、標準の防護装備を使用し、建物内部やタンク内等では自給式呼吸機（ＳＣＢＡ）を用いる。 火にさらされた表面を冷却したり、人を守るために噴霧水を使用する。

異常な火災危険物質: 引火性が非常に高い。 不完全燃焼は多量のすすを生じる恐れがある。 蒸気は可燃性で空気よりも重い。蒸気は地面を移動して遠方の着火源に到達し、逆火の危険を起こすことがある。 有害物質である。消防士は第８項で示したような保護具の使用を検討する。

有害な燃焼生成物: 煙、煙霧, 不完全燃焼時の生成物, 炭素酸化物

燃焼特性

引火点 [試験法]: -11℃ (12° F) [ASTM D-56]
燃焼範囲 (おおよその空気中の容量%): 下限: 1.2 上限: 7.8
発火点: 498℃ (928° F) [技術文献]

セクション 6 漏出時の措置

通報手順

流出または放出事故が起きた場合、すべての適用法令に従って関係機関に通報する。

人体に対する注意事項

流出物に触らない。 当物質は有毒性または可燃性のため、必要なら、周囲および風下地域の住民に警告を与え、避難させる。 消火に関する情報はセクション5を参照。 重大な有害性については危険有害性の要約を参照。 応急処置についてはセクション４を参照。 最低限必要な保護具についてはセクション８を参照。特殊な状況下や緊急時対応の専門家の判断により、追加の保護策が必要になることもある。

流出管理

陸上での漏出: 着火源をすべて除去する（隣接地域での喫煙、フレア、スパークまたは火炎は禁止） 危険を冒さずにできる場合は、漏れを停止させる。 製品を取り扱う時に使用するすべての器具は、アースしておく必要がある。 流出物質を触ったり、その上を歩いたりしないこと。 水路、下水路、地下または閉塞した場所への流入を防ぐ。 気化抑制の泡剤は、蒸気の発生を抑制するのに使用し得る。 洗浄済の防爆型資器材で、吸収された物質を集める。 乾燥した土、砂、または他の不燃性物質に吸収させるか覆い、容

器に移す。 大量流出:水噴霧は蒸気を抑制し得るが､閉鎖空間での発火を防ぐことができない恐れがある。

海上での漏出: 危険を冒さずにできる場合は、漏れを停止させる。 着火源を取り除く。 他の輸送業者にも警告を行うこと。 引火点が周囲温度より10-C以上高い場合、状況が許せば、囲い込み用のブームを用い、すくい取るか、または適当な吸収剤で表面の浮遊物を取り除く。 引火点が周囲温度より10-C以上高くない場合、海岸線を保護する防壁としてブームを使用し、本物質を蒸発させる。 分散剤を使用する前に専門家の意見を求める。

海上での漏出および陸上での漏出についての記載内容は､この物質の最も起こりそうな漏出シナリオに基づいている。しかし、地理的条件、風向、気温、海上での漏出の場合は波、流れの方向、速度によってとるべき行動がおおきな影響を受けるかもしれない。こういった場合、その地方の専門家に相談するべきである。注：その地方の規制により、とるべき行動が指示あるいは制限されていることがある。

環境上の予防措置

大量漏出：後に回収し処分するために、漏出場所から離れたところに堤防を設ける。 水路、下水道、地下または閉塞した場所へ流入することを防ぐ。

セクション 7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

ヒトへのあらゆる接触を避ける。 着火源にさらされることを避ける。例えば、火花の出ない工具や防爆型機器を使用する。滑りによる事故防止のため、少量のこぼれ、洩れを避けること。この製品は、電気スパーク（点火源）が起きるかもしれない静電気を蓄えることができます。適切なアースや接地処置をおこなうこと。しかしながら、アースと設置が、静電気蓄積からの危険回避をできないこともある。適切に適用できるガイダンスを参照すること。この参考として次の引用がある。米国石油協会2003 (Protection Against Ignitions Arising out of Static, Lightning and Stray Currents) または、National Fire Protection Agency 77（Recommended Practice on Static Electricity） または､CENELEC CLC/TR 50404（Electrostatics - Code of practice for the avoidance of hazards due to static electricity)。

積み／降ろし温度: [常温常圧]

輸送温度: [常温常圧]
輸送圧力: [常温常圧]

静電気蓄積: 本物質は静電気を蓄積する。 液体は、通常、伝導率が100pS/m (100x10E-12 シーメンス/m) 以下で、非導電体、静電気蓄積体であり、その伝導率が10,000 pS/m 以下ならば、半導電体、静電気蓄積体と考えられる。液体が非導電体あるいは、半導電体であるかに関わらず、予防措置は同じである。いくつかの要因、例えば、液体の温度及び、汚染物質、静電気防止剤の存在や濾過などが、液体の伝導性に大きくする。

保管

十分な消火用水を、供給できるようにしておく。固定式のスプリンクラー/大量の流水システムが推奨される。 例えば貯蔵用容器など、容器の選定により静電気の蓄積や放電が起こることがある。 容器を閉じておく。容器を注意深く取り扱う。内圧が高まっている場合にそれを逃すため、ゆっくりとフタを開ける。容器を冷所で､換気の良い場所に貯蔵する。 屋外または離隔して保管されることが好ましい。 貯蔵容器は、アースしなければならない。 静電気の蓄積を防止するため、固定貯蔵容器、移動コンテナおよび関連機器は接地しアースを取らなければならない。
貯蔵温度: [常温常圧]
貯蔵圧力: [常温常圧]

適切な容器/包装: タンクローリー; タンカー; 船; タンクローリー
適切な材料及びコーティング（化学的適合性）: ポリプロピレン; 炭素鋼; ステンレス; エポキシ フェノール; フッ化シリコンラバー
不適切な物質および不適切な塗装: エポキシ/樹脂との相溶性は組成により変わる; ゴム; ポリエチレン; PVC

セクション 8 暴露防止及び保護措置

許容濃度

許容濃度/基準値 （ 注記： 複数の値がある場合、加算的ではない ）

物質名	形態	許容値／規格			注意事項	出典
ベンゼン		STEL（短時間暴露許容濃度）	2.5 ppm		皮膚	ACGIH
ベンゼン		TWA	0.5 ppm		皮膚	ACGIH

生物学的限界値

物質	試料	サンプリング時間	基準値	決定因子	出典
ベンゼン	尿酸中のクレアチン	シフト終了	500 ug/g	t,t-ムコン酸	ACGIH BELs (BEIs)
ベンゼン	尿酸中のクレアチン	シフト終了	25 ug/g	S-フェニルメルカプタン酸	ACGIH BELs (BEIs)

注： 許容濃度／基準値は目安として示されている。適用される規制に従う。

設備的対策

必要な保護レベルと管理方法は、潜在する曝露条件によって変わる。以下の対策を考慮する；
局所換気を用意する必要がある。 防爆型換気装置を使用して、爆発限界値未満に抑える。

曝露防止及び保護措置

保護具を選択する際は、実用性、取扱い方法、濃度および曝露され得る可能性を考慮する。 本物質を使用する際の保護具の選択についての情報は、以下に示すように、想定し得る通常の使用方法に基づいている。

呼吸器用保護具: 設備的対応によっても空気中の濃度が、作業員の健康を保護するのに適切なレベルに保たれていない場合、国家検定合格の呼吸保護具を使用することが適当と思われる。該当する場合は、呼吸保護具の選定、使用および保守は法令に従わなければならない。本物質用に考えられる呼吸保護具のタイプは以下の通りである：
半面型フィルター呼吸器 有機ガス用吸収缶。

空気中の濃度が高い場合、承認された空気供給式呼吸器を加圧モードで使用する。酸素レベルが適当ではない、ガス／蒸気の警告特性が貧弱、空気浄化フィルターの容量／定格オーバーの場合は、緊急ボンベ付き空

気供給式呼吸器の使用が適切であると思われる。

保護手袋: ここで提供している具体的な保護手袋に関する情報は、公表された文献及び、保護手袋の製造業者のデータに基づいている。保護手袋の適合性及び、浸透時間は、具体的な使用条件により相違する。保護手袋の選定における明確なアドバイス及び、使用条件での浸透時間については、保護手袋の製造業者に問い合わせること。また、使用前に保護手袋を検査して、すり切れたり、損傷ある手袋は、交換すること。本製品を使用する際に、推奨できる保護手袋の種類は、次の通りである：

耐化学薬品性手袋が推奨される。前腕への接触がありそうな場合、長手袋を着用する。 ポリビニルアルコール(PVA、水中で劣化の可能性がある),バイトン

保護眼鏡: ケミカルゴーグルが推奨される。

保護衣: 提供された個々の保護衣に関する情報は、公表された文献および製造業者のデータに基づいている。本物質用に考えられる保護衣のタイプは以下の通りである：

耐化学薬品/耐油作業衣が推奨される。

衛生措置: 本物質を取り扱った後、手を洗ってから飲食や喫煙をするなど、常に個人で適切な衛生的措置を続ける。汚染物質を取り除くために定期的に作業着と保護具を洗濯する。洗濯できない汚染された衣類及び靴などは廃棄する。確実な備品管理を実施する。

環境規制

大気、水、土壌への汚染を抑制するため、適用される環境に関する法規制に従うこと。また、環境への放出を防止又は抑制するため、適用される適切な管理方法を執り、環境を保全すること。

セクション 9 物理的及び化学的性質

注：物理的及び化学的性質は、安全，健康，環境に関する情報のためのみに提供するものであり、製品の全ての性状を示したものではない。 その他の情報については、供給者に相談すること。

一般情報

物理的状態: 液体
形態: 透明
色: 無色
臭気: 芳香族
臭気閾値: データなし

健康，安全，および環境に関する重要な情報

比重 (@ 20 ℃): 0.877 [社内法]
密度 (@ 20 ℃): 877 kg/m3 (7.32 lbs/gal, 0.88 kg/dm3) [社内法]
引火点 [試験法]: -11℃ (12° F) [ASTM D-56]
燃焼範囲 (おおよその空気中の容量%): 下限: 1.2 上限: 7.8
可燃性(固体、ガス): 適用外
発火点: 498℃ (928° F) [技術文献]
沸点 / 範囲: 80℃ (176° F) [技術文献]
蒸気密度 (空気 = 1): 2.7 @101 kPa [技術文献]
蒸気圧: 10 kPa (75 mm Hg) @ 20℃ | 100 kPa (750 mm Hg) @ 79.9℃ [技術文献]
蒸発率 (酢酸n-ブチル = 1): データなし
pH: 適用外
Log Pow (n-オクタノール/水分配係数): 2.13 [技術文献]
水への溶解性: 僅か

粘度: <0.8 cSt (0.8 mm2/sec) @ 40℃ [社内法]
分解温度: データなし
酸化特性: 危険有害性の要約の項を参照.

その他の情報
凝固点: 5℃ (41° F) [技術文献]
融点: 5℃ (41° F) [技術文献]
流動点: 5℃ (41° F) [技術文献]
分子量: 78
吸湿性: No

セクション 10 安定性及び反応性

安定性: 通常状態で安定。

避けるべき条件: 脚注参照

避けるべき物質: 脚注参照

有害な分解生成物: この物質は、常温では分解しない。

危険有害性反応の可能性: 危険有害性のある重合はおきない。

[備考: この製品は、工業用を目的とする。工業プロセスの工程以外での熱、酸化剤、他の化学物質との接触は回避すること。]

セクション 11 有害性情報

急性毒性

暴露経路	結論／備考
吸入	
毒性 (ラット): LC50 > 43767 mg/m3	毒性が極めて低い。この物質の試験結果に基づく。
炎症: 評価項目データなし	温度が上昇するか機械的な作用により、蒸気、ミスト、または煙霧を生成する可能性がある。これらは眼、鼻、のど、および肺に刺激を与える可能性がある。
摂取	
毒性 (ラット): LD50> 2000 mg/kg	毒性が極めて低い。この物質の試験結果に基づく。
皮膚	
毒性 (ウサギ): LD50> 5000 mg/kg	毒性が極めて低い。この物質の試験結果に基づく。
炎症: データ有り	皮膚への刺激性あり。この物質の試験結果に基づく。
眼	
炎症: データ有り	炎症を生じ、眼の組織を損傷する。類似構造物質の試験データに基づく

短長期暴露による他の健康有害性
ヒトでの経験や実験データから、亜慢性、慢性の呼吸器系又は皮膚感作性、変異原生、生殖毒性、発がん性、標的

臓器毒性（単回暴露又は反復暴露）、吸引性呼吸器有害性その他の健康影響が予想される。

製品:

上にリコメンドする曝露レベルを超えた濃度の蒸気は、眼、呼吸器系を刺激し、頭痛、眩暈を起こし、知覚が麻痺し、他の中枢神経系に悪影響することがある。 曝露が過剰な場合、呼吸不全によりほとんど直後に死亡するか、数時間から数日経ってから死亡することがある。 造血器官へ有害な影響がみられ、かつ白血病を含む重度な血液障害が観察された。 飲み込むないし吐き出す最中に、吸引される少量の液が化学的気管支肺炎ないし肺水腫を引き起こす可能性がある。 軽質炭化水素に非常に高濃度で暴露すると（閉所/不正使用）異常な拍動（不整脈）を招くおそれがある。高いストレスレベルおよび/または高濃度（職業被ばく限界を超える）の炭化水素への共暴露時に、アドレナリン、鼻粘膜充血除去薬、喘息薬または心臓血管薬のような心臓刺激物質を同時に投与すると、不整脈を引き起こすおそれがある。
ベンゼン：人体への疫学的研究から、長期間の高度暴露において、ガン（白血病）の発生、造血器官への損傷及び、重大な血液障害を起こすことが確認されている。また、動物実験及び人体への研究において、遺伝的影響及び、免疫系への影響もあることが確認されている。されに動物実験では、胎児毒性も確認されている。

内容物:
反復暴露により、特定標的臓器毒性あると分類される成分

IARC(国際がん研究機関) 分類:
以下の成分は、下記リストで示す:

化学名	CAS 番号	リスト引用
ベンゼン	71-43-2	1

--探索した規制リスト--

1 = IARC 1(ヒトに対して発ガン性がある)　2 = IARC 2A(ヒトに対して恐らく発ガン性がある)　3 = IARC 2B(ヒトに対して発ガン性がある可能性がある)

セクション 12 環境影響情報

ここに示す情報は、この物質、成分および類似物質のデータに基づいている。

生態毒性

物質 -- 水生生態に有毒であると予測される。

移動性

物質 -- 非常に揮発性が高く、速やかに空気中に拡散する。 汚泥ならびに汚水固形物として分離することは予測されない。

残存性および分解性
生物分解:

物質 -- 易生分解性であると予測される。

加水分解:

物質 -- 加水分解による変性は少ないと予測される。

光分解:

物質 -- 光分解による変性は少ないと予測される。

大気中での酸化反応:

物質 -- 穏やかな速さで空気中で分解することが予測される。

生体蓄積性の可能性

物質 -- 生態蓄積の可能性は低い。

生態学的データ

環境有害性

検査	持続期間	生物種	検査結果
水生 - 急性毒性	48 時間数	オオミジンコ	EC50 10 mg/L
水生 - 急性毒性	72 時間数	緑藻 / プセウド・キルクネリエラ・サブカピタータ (Pseudokirchneriella subcapitat)	ErC50 29 mg/L
水生 - 急性毒性	96 時間数	ニジマス	LC50 5.3 mg/L
水生 - 慢性毒性	28 日	Morone saxatilis	NOEC 3.1 mg/L
水生 - 慢性毒性	28 日	Morone saxatilis	LOEC 5.3 mg/L
水生 - 慢性毒性	7 日	ニセネコゼミジンコ	NOEC 3 mg/L
水生 - 慢性毒性	7 日	ニセネコゼミジンコ	LOEC 9 mg/L

残存性，分解性および生体蓄積性の可能性

媒体	検査タイプ	持続期間	検査結果
水	光分解		半減期(t1/2) 13.4 日
水	易生分解性	28 日	分解率% 96 : 物質
オクタノール一水	計算値		log Kow 2.13 : 物質
水	生体蓄積性		BCF <10 : 物質

セクション 13 廃棄上の注意

廃棄方法

供給された物質を適切に廃棄する。廃棄に際しては、その時点での廃棄物の状態に応じて、適用される法律、規制に従わなければならない。

廃棄に関する勧告

本製品は燃料として、密閉系の火力調整できるバーナーで燃やすか、または有害な燃焼物の生成を防ぐために特別に管理された設備で焼却するのが適している。

空容器に関する警告 空容器に関する警告（該当する場合）: 空容器には残留物が含まれていることがあり、危険である可能性がある。正しい指示を得ないで、容器の再充填またはクリーニングをしてはいけない。空のドラム缶は適切に修理するか廃棄するまで、内容物を完全に取り出し安全に保管するべきである。空容器は、適切な資格を持つかまたはライセンスを受けた契約業者により、政府の規則に従いリサイクル、回収、または廃棄するべきである。容器に加圧、切断、溶接、ろう付け、はんだ付け、穴開け、研磨操作を加えたり、容器を熱、火炎、スパーク、静電気、または他の発火源にさらしてはいけない。容器は爆発し、傷害や死亡事故を引き起こすことがある。

セクション 14 輸送上の注意

陸上ー輸送手段及び輸送条件の注意事項:

容器表示として、製品名、消防法分類、数量、危険等級および「火気厳禁」の表示をする。 指定数量以上の製品を車両で運搬する場合は、「危」の標識を車両の前後に表示し、消火設備を備える。 第1類、第6類の危険物及び高圧ガスと混載しないこと。 消防法の定める危険物と混載しないこと。 陸上輸送では、積荷の高さは3メートル未満とする。 その他関係法令の定めるところに従う。

海上輸送 (IMDG)

正式品名: ベンゼン
有害物クラスおよび区分: 3
EMS(非常措置指針)番号: F-E, S-D
国連番号: 1114
容器等級: Ⅱ
海洋汚染物質: なし
ラベル: 3
輸送書類名: 国連番号 1114、ベンゼン、区分 3、容器等級 Ⅱ、(-11℃ c.c.)

海上輸送 (MARPOL条約 - 付属書 Ⅱ)

製品名: ベンゼン及び、10%以上ベンゼンを含む混合物
船型: 3
汚染区分: Y

航空輸送 (IATA)

正式品名: ベンゼン
有害物クラスおよび区分: 3
国連番号: 1114
容器等級: Ⅱ
ラベル / 記号: 3
輸送書類名: 国連番号1114、ベンゼン、区分3、容器等級 Ⅱ

セクション 15 適用法令

この物質は、化学品の分類及び表示に関する調和システム(GHS) (JIS Z 7252-2009)に基づく区分によれば有害性があると見なされる。

規制現状および適用法令

適用法令:

大気汚染防止法：有害大気汚染物質
航空法：規制対象物質
化審法: 既存化学物質
化審法: ベンゼン；優先評価化学物質
消防法：危険物第４類 引火性液体 第１石油類 （非水溶性液体）、危険等級Ⅱ
高圧ガス取締法：第2条 高圧ガス
労働安全衛生法 : 通知対象物質
労働安全衛生法 : 表示対象物質
労働安全衛生法（危険物） ：引火性の物
労働安全衛生法（特化則） ：特定化学物質
海洋汚染防止法：規制対象物質
毒物及び劇物取締法（PDSCL）: 非該当
港則法：危険物
化学物質管理促進法（PRTR法）: 対象物質

船舶安全法：規制対象物質
廃棄物処理法: 特別管理産業廃棄物
水質汚濁防止法：有害物質

セクション 16　その他の情報

N/D =情報なし, N/A =非該当
本文のセクション 3 に、GHS の H-コードを追記した（情報のため）
H225 : 引火性の高い液体および蒸気 ; 引火性液体、区分 2
H303 : 飲み込むと有毒のおそれ ; 急性経口毒性、区分 5
H304 : 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ ; 吸入、区分 1
H315 : 皮膚刺激 ; 皮膚腐食性 / 刺激性、区分 2
H319(2A) : 強い眼の刺激 ; 重篤な眼の損傷 / 刺激性、区分 2A
H340(1B) : 遺伝性疾患のおそれ ; 生殖細胞変異原性、区分 1B
H350(1A) : 発がんのおそれ ; 発がん性、区分 1A
H372 : 長期に渡るあるいは、反復暴露による臓器の損傷 ;　特定標的臓器毒性、反復暴露、区分 1
H401 : 水生生物に毒性 ; 急性環境毒性、区分 2

この文書に含まれる情報および推奨事項は、東燃ゼネラル石油株式会社が有する情報および知見の範位の限りで、発行時において正確且つ信頼できるものです。この文章が最新版であることを確認する場合は東燃ゼネラル石油株式会社にご連絡ください。この文書の情報および推奨事項は、使用者による検討、調査のために提供されています。本製品の特定の使用目的への合致の有無については使用者においてご確認ください。本製品の購入者が荷姿を変更する場合、健康、安全、その他必要な情報を含む書類を同封しまたは容器に添付するのは購入者の責任です。適切な警告標示、安全な取扱い手順を、取扱者と使用者に提供して下さい。この文書を全体的または部分的に変更することは堅く禁じられています。法的に必要な場合を除いて、再発行、再頒布することは、許可されていません。